

平成 20 年度 事業報告書

学校法人 金沢医科大学

目 次

法人の概要について	3 ~ 7
1. 学校法人の所在地	
2. 設置する学校・学部・学科等の名称及び定員等	
3. 附属研究所及び病院	
4. 役員・評議員・教職員の概要	
5. 建学の精神、教育目標	
6. 沿革	
事業の概要について	8 ~ 27
1. 事業の概要	
2. 事業計画の進捗状況	
3. 入試に関する事項（志願者数、入学者数）及び卒業・修了の状況	
4. 金沢医科大学病院の稼働実績	
5. 金沢医科大学氷見市民病院の稼働実績	
財務の概要について	28 ~ 32
1. 平成20年度決算の概要	
2. 最近5年間の収支概況	
3. 平成20年度収益事業（金沢医科大学氷見市民病院）決算の概要	

法人の概要について

1. 学校法人の所在地

石川県河北郡内灘町字大学 1 丁目 1 番地

2. 設置する学校・学部・学科等の名称及び定員等

平成 20 年度において、本法人が設置する学校・学部・学科等は下記のとおりです。

金沢医科大学附属看護専門学校は、平成 19 年 4 月より看護学部看護学科(4 年制)開設のため募集を停止し、平成 21 年 3 月末に廃校となりました。

(平成 20 年 5 月 1 日現在)
(単位 : 人)

学 校 名		入学定員	収容定員	現員	摘 要
金沢医科大学	大学院 医学研究科	35	140	66	
	医学部 医学科	100	600	654	
	看護学部 看護学科	60 3 年次への編入 10	260	126	
金沢医科大学附 属看護専門学校	看護専門課程 看護学科	-	60	67	
合 計		205	1,060	913	

3. 附属研究所及び病院

名 称	所 在 地
金沢医科大学総合医学研究所	石川県河北郡内灘町字大学 1 丁目 1 番地
金沢医科大学病院	石川県河北郡内灘町字大学 1 丁目 1 番地
金沢医科大学氷見市民病院	富山県氷見市幸町 31 番 9 号

金沢医科大学氷見市民病院は私立学校法第 26 条の収益事業。設置者は富山県氷見市。

4. 役員・評議員・教職員の概要

役員・評議員・教職員の概要は次のとおりです。

(平成20年5月1日現在)

【役員】

理事

理事長	小田島 肇夫	副理事長	竹 越 裕		
副理事長	山 下 公 一	理事(学長)	山 田 裕 一	理事(病院長)	飯 塚 秀 明
理事(金沢医科大学氷見市民病院長)				高 島 茂 樹	
理事	大 田 修	理事	松 本 忠 美		
理事	勝 田 省 吾	理事	宮 村 栄 一		
理事	東 田 紀 彦	理事	伊 藤 博		
理事	奥 名 洋 明	理事	久 藤 豊 治		
理事	澁 谷 亮 治	理事	飛 田 秀 一		

以上 理事 16名

監事

水 株 正 紀	中 村 行 男	米 沢 寛
		以上 監事 3名

【評議員】

小田島 肇夫	山 田 裕 一	飯 塚 秀 明
奥 名 洋 明	勝 田 省 吾	久 藤 豊 治
澁 谷 亮 治	飛 田 秀 一	宮 村 栄 一
荒 田 満	大 田 修	大 野 木 辰 也
木 村 晴 夫	小 平 俊 行	島 智 一
中 川 秀 昭	中 農 理 博	中 山 正 喜
古 居 滋	宮 本 孝 子	宮 本 文 夫
伊 藤 透	大 島 讓 二	大 山 充 德
緒 方 盛 道	角 田 弘 一	吉 田 勝 明
伊 藤 博	大 原 義 朗	鈴 木 孝 治
鈴 木 宗 幸	高 島 茂 樹	竹 越 裕
土 田 英 昭	東 田 紀 彦	梅 博 久
松 井 忍	松 本 浩 平	松 本 忠 美
八十出 泰 成	山 下 公 一	横 山 隆 昭

以上 42名

【教職員】

(単位:人)

区分		本部	大学	看護 学部	看護專 門学校	本学 病院	氷見市 民病院	計
教員	学(校)長		1					1
	副学(校)長							
	教授		62	11		2	5	80
	准教授		47	6		1	8	62
	講師		48	2	1	2	6	59
	助教		21	5		187	6	219
	助手		5	5	7			17
	本務教員合計		184	29	8	192	25	438
	非常勤教員		180	13				193
職員	事務系	10	100	5		84	27	226
	教務系		43			1		44
	厚生補導系		2					2
	技術技能系	1	25			14	2	42
	医療系					1,066	224	1,290
	その他				1	17	1	19
	本務職員合計	11	170	5	1	1,182	254	1,623
	兼務					6		6

(注) 平均年齢は、教員 45.1 歳、職員 38.8 歳である。

5. 建学の精神、教育目標

(1) 建学の精神

良医を育てる

倫理に徹した人間性豊かな良医を育成する

知識と技術をきわめる

医学の深奥をきわめ優れた医療技術を開拓する

社会に貢献する

生命の尊厳を基調とし人類社会の医療と福祉に貢献する

(2) 教育目標

医学部

医学部の教育の基本目標は、建学の精神に述べている「人間性豊かな良医の育成」にある。

「良医」とは、「常に患者の立場に立って考え、個々の患者に最も適した医療を提供できる、そして、それを可能とする知識と技術に精通した医師」である。医学部の6年間の卒前一貫教育、それに続く卒後初期臨床研修、専門医研修、そして大学院においては、まず医師としての人間形成を基本においたうえで、知的好奇心を育み、問題に立脚した解決能力を磨き、急速に進歩する医学に対応して生涯にわたって自己研修を行って未来を開拓していくことができる能力を獲得することを常に基本目標におき、良医育成のためのカリキュラムを展開している。

看護学部

看護学部の教育目標は、社会的ニーズに対応できる豊かな人間性と確かな理論・技術を備えることを基本とし、保健・福祉・医療の専門職者と協働してケアするチーム医療の調整者としての役割を果たしていくために必要な基本的能力を身につけた看護専門職者の育成にある。

また、複雑、多様化する社会状況の中で、未知の課題に対して幅広い視野から的確な判断ができる問題解決能力、さらに生涯にわたって専門性を深める自己開発能力を育成する。

看護学部では、これら専門的な能力を備えた看護専門職者の育成を目指したカリキュラムを展開している。

6. 沿革

昭和 47 年 3 月 30 日 学校法人金沢医科大学認可

昭和 47 年 6 月 1 日 金沢医科大学開学

昭和 48 年 4 月 1 日 金沢医科大学附属看護学校開校

昭和 49 年 9 月 1 日 金沢医科大学病院開院

昭和 50 年 7 月 1 日 金沢医科大学歯学研究所開設

昭和 57 年 4 月 1 日 大学院医学研究科設置

昭和 58 年 4 月 1 日 热帯医学研究所開設
人類遺伝学研究所開設

昭和 62 年 2 月 10 日 金沢医科大学病院別館稼働
3 月 31 日 金沢医科大学歯学研究所廃止

昭和 63 年 4 月 1 日 金沢医科大学附属看護学校が附属専門学校に昇格

平成 元年 4 月 1 日 総合医学研究所開設
(人類遺伝学研究所、熱帯医学研究所、共同研究室を統合)

平成 6 年 3 月 24 日 厚生省から特定機能病院に承認

平成 12 年 10 月 1 日 電子カルテ全科実施

平成 15 年 4 月 1 日 財団法人大学基準協会「正会員」加盟・登録承認
大院医学研究科生命医科学専攻開設
8 月 31 日 病院新館竣工

平成 16 年 4 月 1 日 医学部講座組織の改組

平成 17 年 3 月 1 日 21 世紀集学的医療センター設置

平成 19 年 1 月 22 日 病院機能評価バージョン 5 認定

平成 19 年 4 月 1 日 金沢医科大学看護学部開設

平成 19 年 11 月 21 日 氷見市民病院指定管理者に決定
(平成 20 年 4 月 1 日より)

平成 20 年 3 月 11 日 財団法人大学基準協会大学基準適合認定
(平成 20 年 4 月 1 日付)

平成 20 年 4 月 1 日 指定管理者制度による金沢医科大学氷見市民病院
開設 (私立学校法第 26 条の収益事業)

平成 21 年 3 月 31 日 金沢医科大学附属看護専門学校 廃校

事業の概要について

平成20年度の主な事業は、下記のとおりです。

1. 事業の概要

(1) 法人部門

- 1) 金沢医科大学氷見市民病院の管理運営
- 2) 看護師宿舎の建設
- 3) 病院第二期整備
- 4) 特別高圧2回線化及び特別高圧変電所の設備更新
- 5) 町有地の買収
- 6) 医学部奨学事業引当特定資産
- 7) 看護師確保対策
- 8) 電気空調等設備の省エネ、老朽化改善

(2) 大学部門

- 1) 医学部編入生の第1次第2学期入学
- 2) 医学部、看護学部合同入学式
- 3) 教育研究の活性化
 - A . 入学志願者の確保
 - B . 教育の充実
 - C . 研究の活性化
 - D . 国際交流の推進
 - E . 北陸がんプロフェッショナル養成プロジェクト事業
- 4) 医師、看護師の定着化対策
- 5) 管理運営
- 6) 研究用機器
- 7) 図書館の電子化（電子ジャーナル導入）
- 8) 文部科学省の補助対象事業

(3) 病院部門

- 1) 麻酔医の確保と業務の効率化
- 2) 栄養部のシステム老朽化更新と効率化
- 3) 患者サービス向上
- 4) 医療安全の確保
- 5) 患者と医療者のパートナーシップ
- 6) 医療の高度化と質の向上
- 7) 地域連携・地域貢献
- 8) 教育研修
- 9) 人材確保対策と就業環境の改善
- 10) 医療機器整備
- 11) 施設設備整備
- 12) 収支改善
- 13) 経営管理目標の達成状況

(4) 金沢医科大学氷見市民病院

- 1) 診療体制の整備
- 2) 収益増加対策
- 3) 経費削減対策
- 4) 教育・研修体制の充実
- 5) 新病院建設の対応
- 6) 医療機器の整備状況

2. 事業計画の進捗状況

(1) 法人部門

1) 金沢医科大学氷見市民病院の管理運営

本学と氷見市との間に締結された「氷見市民病院の経営管理に関する協定」に基づき、同市民病院は、平成20年4月1日から「金沢医科大学氷見市民病院」として公設民営化され、本学が地方自治法の指定管理者となって同病院の経営を行うこととなった。

同20年9月29日、寄附行為の変更により同氷見市民病院は、私立学校法第26条の収益事業となったが、本学の教育実習病院としての位置づけには変わりなく、同時に患者中心の医療と地域医療への貢献を目指すものである。

平成20年度は、医師、看護師の確保、経営収支の改善、安全衛生及び医療サービス向上を目標としてきたが、常勤医師の不足等により同病院の収支決算は約5,000万円の赤字となった。

なお、同市民病院の運営及び決算の詳細は、後段資料を参照されたい。

2) 看護師宿舎の建設

平成21年3月下旬、鉄骨造地上9階建、延床面積約5,630m²、162戸、全室ワンルーム、セキュリティを備えた看護師宿舎が完成した。

建設費は、11億3,229万円（撤去費用等を除く。）

機能的な宿舎を整備し、看護師が気持ちよく安心して働ける環境を整えることにより医療・看護サービスの充実につながることが期待される。

3) 病院第二期整備

病院本館と別館に分散している病棟を別館に集約し、診療機能の高度化と運用の効率化を図ったもので、平成21年3月下旬に完成した。

病院別館改修工事費は12億1,089万円（撤去費用等を除く。）

別館改修工事の主たる工事内容としては、次のとおり。

別館の防災機能を病院新館の防災センターに統合する改修

1階救急医療センターの改修

2階神経科精神科外来・精神科作業療法室・精神科プレイルーム、脳波室の改修並びに3階神経科精神科病棟とするための改修

4階内科系一般病棟としての改修

5階一般病棟（形成外科）としての改修

6階回復期リハビリ病棟としての改修

7階健康管理センター病棟・外来とするための改修

8階健康管理センター病棟としての改修

4) 特別高圧2回線化及び特別高圧変電所の設備更新

平成20～22年度の3期にかけて実施する計画の初年度事業。

平成20年度（第1期）は22kV特別高圧盤更新であったが、受注生産であり完成納期が年度を跨ぐということで一部が次年度に繰り越しどなった。

当期の進捗率は40%程度で、建設仮勘定に1億2,263万円を計上した。

平成21年度（第2期）は高圧設備更新を予定し、平成22年度（第3期）は受電変圧器更新を行い、2回線化受電事業を完結させる計画である。

5) 町有地の買収

将来の研修医及び学生等の宿舎建設または教育研究施設再構築時の駐車場として利用するため、内灘町から一般競争入札により町有地を買収した。

場所は、内灘町ハマナス2丁目78番～84番（計7筆）の宅地、面積2,371m²（約720坪）。買収額は、1億790万円（競争者辞退のため最低落札価格）

6) 医学部奨学事業引当特定資産

医学部の特別奨学生の授業料貸与制度の資金確保を図るため、20年度に1億円を積み増し4億円とした。

7) 看護師確保対策

院内病児保育所の創設を計画したが、場所と人材確保の困難さや工事費用等の問題で実現できなかった。今後、早急に計画内容を再検討し、平成21年度には場所、規模等を決定し、実施したいと考えている。

8) 電気空調等設備の省エネ、老朽化改善

次の施設設備関係の老朽化改善等を計画どおり実施した。

省エネルギー対策（病院別館の吸収式冷凍機の更新）

電気室受変電設備更新（基礎研究棟）

空調設備更新（基礎研究棟）（平成20年度から平成26年度まで順次予定）

空調制御改修（温湿度）工事（病院新館）

非常用直流電源整備（基礎研究棟）

中央監視増強計画（基礎研究棟）

特別病室エアコン設置工事（病院新館）

電力調相設備改善（臨床研究棟）

給水管更新（本部棟）

非常用蓄電池整備（病院別館）

冷温水ヘッダー更新（病院本館）

ハートセンターサーバー室エアコン増設工事（病院新館）

特別高圧及び高圧機器細密整備（病院新館ほか）

(2) 大学部門

1) 医学部編入生の第 1 次第 2 学期入学

専門教育の早期実施に対応する新制度として、平成 20 年度から編入 8 月入学（在学年数 5.5 年間）を実施した。新制度による編入生は 4 名であった。
なお、以降の編入学は後期入学のみとなる。

2) 医学部、看護学部合同入学式

医学部 98 名及び看護学部 63 名の新入生を迎える、平成 20 年 4 月 8 日、県立音楽堂で合同入学式を行った。

3) 教育研究の活性化

A . 入学志願者の確保

医学部

医学部定員増に係る申請が認可され、平成 21 年度から入学定員 110 名、収容定員 660 名となった。

入学志願者 3,000 名以上を目指して学生募集を展開し、入学試験場の増設や特別奨学金貸与制度の拡充、入学検定料支払方法の多様化などにより、優秀な学生の確保に努めた結果、2,500 名以上を確保できた。

また、秋季入学(第 1 学年)の編入学試験を新たに開始し 4 名が入学した。

なお、特別奨学金貸与制度（卒業後 5 年間の本学勤務により返還免除）により、10 名が入学した。

看護学部

2 年連続して募集定員割れとなった推薦入試は志願者数が 27 名と増加したが、一般入試の志願者数は減少し 138 名に留まった。

また、初めての編入学試験を実施し 6 名が入学した。

B . 教育の充実

良医を育成するための医学教育をより効果的に行い、教育の質の向上を図るため、カリキュラムの一部改正などの教育課程や教育方法の工夫改善に努めた。また、教育環境の整備にも順次取り組み、学生の学習環境の充実を図った。

低学年教育のカリキュラムを見直し、基礎医学と一般教育のバランスを図った。

シミュレーション教育の強化を目指したクリニカル・シミュレーション・センター (CSC) の開設準備を遂行した。

基幹講義室の機器や装置の更新、M30 実習室や情報処理教室の機能強化を図り、学習環境を整備した。

第 1・2 学年生の TOEIC 受験など、英語力の強化教育を推進した。

高く安定した医師国家試験合格率の確保を目指し、教務委員会を中心とした強化教育プログラムを推進した。

C . 研究の活性化

大学院の活性化

昼夜開講制の導入による社会人入学生（臨床研修医）の確保や優秀な外国人留学生の受入など、定員充足に対する積極的な取組により、定員充足率は大幅に増加し、28 名となった。

外部研究資金の獲得

研究業績の優れた教員の採用や研究推進会議の精力的な取組により、科学研究費補助金などの外部からの助成金の一層の獲得に努めた。

大学院や研究所等を基盤として学術研究の高度化、活性化を図った結果、新たに大型の外部研究資金を獲得した。

また、文部科学省知的クラスター整備事業の採択に伴い、「金沢医科大学 FDD - MB センター」が新たに開設され、研究活動が本格的にスタートした。

なお、競争的資金等の運営・管理を適正に行うため、取扱いに関する責任体制を明確化し、大学全体として公的研究費の管理・監査を行っている。

産学官連携の推進

研究推進センターを核とした産学官連携体制を構築し、学外機関(企業、大学、自治体等)との連携の強化を推進した。

体制が整備されたことにより、「知的財産セミナー」などの啓蒙活動や「ひらめきときめきサイエンス ようこそ大学の研究室へ」などの社会還元活動などを計画的に展開した。

D. 国際交流の推進

本学のこれまでの国際交流活動に関する業務や広報機能のさらなる充実を目指し、国際交流をより一層機動的に推進するため、国際交流センターを開設した。

従前の継続事業に加え、次のとおり国際交流の幅を広げた。

バーモント大学との相互訪問

セントマイケルズ・カレッジ語学・医学研修

ドイツのマグデブルグ大学医学部と学術交流に関する協定を締結

パラオ共和国保健省との医療協力を開始

テキサス A & M 大学医学部に本学学生を派遣

イブニングイングリッシュの開講

交流カフェのスタート

E. 北陸がんプロフェッショナル養成プロジェクト事業

がんプロフェッショナル事業を本格的に稼働させ、E-learning 教育を積極的に展開した。大学院 FD についても計画的に実施した。

4) 医師、看護師の定着化対策

この定着化対策として医学部及び看護学部生の奨学金制度の拡充を図った。

平成 20 年度は計 7,328 万円を貸与した。また 21 年度からは医学部の奨学金対象を 5 名増とし、さらに医学部及び看護学部の教職員子弟枠(若干名)を別に設けることとした。

5) 管理運営

平成 20 年 4 月 1 日付けで大学基準適合認定証の交付を受けたが、本学が大学評価(認証評価)を受審した際に作成した点検・評価報告書や評価結果等をまとめ、冊子として刊行・配付した。

また、本学のホームページ上にも掲載し広く社会へ公表した。

6) 研究用機器

総合医学研究所の共同利用機器として、「タンパク発現差異解析システム」が整備された。費用総額は 3,400 万円であり、文部科学省から補助金として 2,266 万円が交付された。

7) 図書館の電子化（電子ジャーナル導入）

平成 19 年度からの 3 年計画で電子ジャーナル導入による図書の電子化を推進しているが、平成 20 年度は約 3,000 タイトルを電子化し、契約金額は 7,510 万円であった。

8) 文部科学省の補助対象事業

次の補助事業を計画どおり実施した。

戦略的研究拠点形成支援事業

- ・研究事業名：「高齢化の進む過疎地域での分散型医療拠点を生かしたストレス・コーピングの研究」
- ・研究プロジェクト名：
 1. ストレス障害からうつ病に至る疾患スペクトルの過疎地高齢者における時系列発展の解明
 2. 発生工学的手法によるストレス障害・気分障害モデル動物群の網羅的開発
- ・研究代表者：加藤伸郎教授
- ・研究期間：3 年
- ・平成 20 年度の事業費は、合計 2 億 400 万円
(補助金 9,300 万円)
- ・機器施設の整備内容
 1. 動物飼育・実験室設置（基礎研究棟地階）他 9,300 万円
 2. 機器整備費（以下の 3 件） 1 億 1,100 万円
 - 共焦点レーザースキヤン顕微鏡 4,900 万円
 - 光トポグラフィー装置 3,800 万円
 - 行動解析装置 2,300 万円
 3. 研究費、動物飼育ケージ他 2,000 万円

医師不足対策に伴う教育環境の整備事業（アナトミーセンター整備）

- ・整備内容：
 1. 医学部定員増に伴う解剖実習台 3 台、貯蔵庫 2 台の増設 2,000 万円
 2. 解剖実習室の換気設備改修（ホルムアルデヒド濃度規制対策） 2,000 万円
- ・事業費合計 4,000 万円
(補助金 2,000 万円)

(3) 病院部門

1) 麻酔医の確保と業務の効率化

バイタルチェック自動化、麻酔記録の電子化により、請求漏れ防止、麻酔業務の効率化を図り、麻酔医の負担を軽減するため、麻酔管理システムを導入した。導入経費はハード・ソフトで 8,933 万円となっている。

2) 栄養部のシステム老朽化更新と効率化

現栄養システムの老朽化更新、業務効率化及び安全衛生の強化を図るため、3 年計画で実施。本年度の導入経費は 1,470 万円であった。

3) 患者サービス向上

接遇研修の開催

患者サービス向上を目指した接遇研修は毎年、継続的に開催されており今年度は 3 月に開催され、医師 20 名、看護師 230 名、コメディカル 60 名、事務職 123 名ほか合計 461 名の参加があった。

外来診察待ち時間の短縮化

採血・検尿の待ち時間について、約 20 分の待ち時間があったが平均 10 分以内、心電図は、平均 15 分以内、X 線は 10 分以内となって短縮化に努めた。

患者満足度調査の継続的実施

外来患者、入院患者から満足度調査を行い、その結果を診療科や病棟などへフィードバックして業務の改善に資するよう努めている。

フロアーサービスの推進

正面出入り口での受診相談や案内、誘導、サポートなど看護師長、ポーターが中心となって、患者サービスの向上に努めている。

4) 医療安全の確保

インシデント・医療事故報告システム（スマートリスクマネジメントシステム）

稼働 2 年目を迎え、平成 20 年度は 3,024 件のインシデント報告、37 件の医療事故報告があり、それらの代表的な事例が医療安全対策委員会で報告され、インシデントは 21 事例で改善策及び事故防止策の周知が図られた。

患者誤認防止システム

平成 20 年度末に新館 10 階西病棟及び 8 階西病棟で試験稼働の準備が進められた。平成 21 年度からは全病棟において注射・処方・輸血を対象として本格稼働する予定である。

感染対策の強化、充実

平成 19 年 4 月に「感染対策室」が設置され、専従の ICN（感染管理看護師）が配置されたことにより適切なコンサルティングによる感染対策が着実に実施されている。院内感染対策委員会を中心に感染管理の体制強化として、感染症対策マニュアル（指針、感染経路別予防策など）の改訂、抗菌薬適正使用の促進、院内ラウンドでの指導、感染情報の提供、手洗い講習会、職員教育としての教育講演会の開催などを実施している。

注射薬調剤業務の一元化

新館 8 階の東西病棟をテストケースとして病棟で注射薬を混注している。平成 21 年度は 4 か所にステーションを設置し、全病棟を対象とする予定である。

5) 患者と医療者のパートナーシップ

患者への情報の開示、情報提供については、平成 20 年度は患者・家族からの診療内容の確認や手元保管希望などによる依頼が 28 件（19 年度 24 件）、医療紛争・医療訴訟などトラブルや提訴を前提としたものによる依頼は 1 件（19 年度 5 件）、合計 29 件（19 年度 29 件）が開示された。

6) 医療の高度化と質の向上

医療安全管理体制の強化推進

診療管理基準、医療安全対策マニュアル、感染症対策マニュアル、災害対策マニュアルは各部署に常備されると共に隨時、公的機関の指導や現場の診療方針、ガイドラインの変更等にあわせて内容の改訂を実施している。

地域がん診療連携拠点病院としての機能強化

がん診療連携拠点病院が実施すべき要件は、集学的医療のための人材育成研修、院内がん登録、がん相談支援センター設置によるがん相談、緩和ケアチームによる診療支援活動であるが、平成 20 年度は地域がん拠点病院として機能の充実化に向けて積極的に取り組んだ。

集中治療室等の施設基準、高度先進医療の取り組み

- ・脳卒中ケアユニット入院管理加算の申請は、平成 21 年度の看護師補充状況を勘案して今後、継続して検討していく予定である。
- ・心大血管疾患リハビリについては、平成 20 年 8 月に施設基準の承認を得て急性期心疾患患者の早期社会復帰に対応したリハビリ実施の観点から、循環器内科・胸部心臓血管外科の積極的な参加で担当医の現場派遣の協調体制を構築した。
- ・既存先進医療の中から、「胎児心超音波検査」（小児科）及び「多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術」（眼科）の実施について、厚生労働省への申請準備及び院内治験が開始された。

クリニカルパスの拡充

クリニカルパスの保有件数は、平成 20 年度は 137 件となり、ほぼ全診療科で保有、実施されるようになった。平成 20 年度は院内パス大会を 5 回開催したが、医療の効率化と患者負担の軽減、在院日数短縮など EBM に基づいた医療の標準化が浸透しつつあると評価できる。

また、患者紹介・逆紹介の病診・病病連携を病院運営の再重要課題として、連携のツールとして運用を開始した白内障疾患の地域連携パスは、複数の医療機関と運用を実施している。診療報酬的にも脳卒中、大腿骨頸部骨折の連携パスが保険収載されていることから、地域の医療機関、診療所との機能分化による診療連携をさらに活性化するため、平成 21 年度は地域連携パスの共同開発（脳卒中、大腿骨頸部骨折を中心に）を積極的に行い、患者の紹介・逆紹介を通じて一貫した医療が提供できる体制を整備していく計画である。

7) 地域連携・地域貢献

紹介、逆紹介の状況

平成 20 年度の新患・初診の紹介患者数は 8,565 名で、再診分の紹介患者数を含めると 1 万 1,565 名になる。前年度比較では新患初診で 320 名減少、再診分で 123 名の増加があったため紹介患者数全体では 197 名の減少となった。

地域保健医療活動

- ・継続的に、県予防医学協会や成人病予防センターが実施する地域住民検診への医師の派遣、その他学校検診への専門医の派遣を行った。
- ・21 世紀集学的医療センターにおいて、患者向けに毎月 2 回生活習慣病の予防対策として運動教室を開催し各 30 名前後の住民が参加した。また、一般者向けの健康づくりセミナーを内灘町、金沢市、病院内などでメタボリック症候群や栄養と内臓脂肪、タバコと健康のテーマとして 4 回開催し各々約 80 名が参加した。
- ・集学的医療セミナーとして医療従事者向けに遺伝子医療、緩和医療、性差医療、がん治療における心の問題などをテーマに病院内で 4 回開催、1 回 100 名程度の参加があった。

遠隔医療システム・地域医療連携システムの導入

- ・公立穴水総合病院・地域診療所が連携し、本学病院からのテレコンサル（透析管理支援、がん相談・化学療法支援）による協力体制が構築された。

8) 教育研修

・臨床研修

平成 21 年度プログラムの策定と、現在研修中の平成 19 年度研修プログラム（研修医 22 名）及び平成 20 年度研修プログラム（研修医 23 名）の円滑な実施に努めた。

また、臨床研修プログラムに関するモデル事業の申請として、平成 21 年度から「特別コース研修プログラム」産科婦人科コース（定員 2 名）小児科コース（定員 2 名）外科コース（定員 4 名）で実施することを申請し厚生労働省に受理された。

9) 人材確保対策と就業環境の改善

看護師募集活動

北陸 3 県と東海地方、新潟、長野などを中心に看護学校訪問を行ったほか、大阪、名古屋、金沢での合同説明会へ参加して当院のブースを開設した。さらに、昨年に引き続き病院長出席のもとに富山市、福井市での単独の病院説明会を開催した。また、志願者のニーズに沿った病院見学説明会を随時、開催した。

看護師離職者防止対策として平成 20 年度も引き続き魅力ある職場づくりを推進し、教育体制の充実、資格取得への経済的支援、就業支援など看護業務の改善に取り組み、看護師業務の効率化にあたった。また、看護師募集パンフレット、看護部ホームページなどを刷新して看護師のイメージ向上対策にも積極的に取り組んだ。

看護人材確保のため平成 21 年 3 月に看護師宿舎（9 階建て 162 室収容）が新築された。

10) 医療機器整備

大型放射線機器の整備は、MRI 装置（新機種は MAGNETOM Trio 3.0T ）1 台（整備費 2 億 9,925 万円）を更新した。

医療用機器整備は、更新機器 62 件、追加機器 37 件、新規機器 44 件の整備を行った。整備費用は 4 億 6,542 万円となっている。

情報システムの整備として、別館改修に合わせた別館 LAN の更新、電子カルテ情報基盤整備などの病院情報システム（HIS）の更新整備のほか、麻酔管理システム（新規）、栄養システム（更新）、インシデント情報・感染情報収集システム（新規）などの部門システムの整備を行なった。

11) 施設設備整備

MRI 装置（3.0T）の導入に伴う MR - CT 棟の改修工事（8,088 万円）及び内視鏡陰圧換気システムほかの改善工事を計画どおり実施した。

12) 収支改善

看護師配置 7 : 1 の通年確保及び特定集中治療室管理加算等

- ・特定機能病院入院基本料（看護師配置 7 : 1 ）は、入院患者数の減少もあり通年で確保することができた。
- ・ハートセンターを対象とした特定集中治療室管理料は、看護師不足から 8 床運用となっているが、専従の医師がいないという問題が継続課題である。
- ・心大血管疾患リハビリテーションは施設基準の要件を整え、8 月から算定を開始した。
- ・脳卒中ケアユニット入院医療管理料の届け出は、看護単位の問題があることから引き続き、検討課題とする。

PET - CT、リニアック、小線源治療装置等の大型機器による患者誘致

大型機器の利用状況は、年間実績で概ね当初計画をクリアしているが、PET - CT システム、IVR - CT アンギオシステム、心血管撮影装置 AXIOM の 3 件については十分ではない状況ではあるが、いずれも前年度より増加している。

今後、さらに積極的に対象患者の誘致を図っていかなければならないが、特に、PET - CT システムについては、人間ドックと連携した検査の増加を目指してその増加を図っていく。

なお、平成 21 年度は 2 台目の MRI 装置の更新が計画されており、これら大型機器の効率的な運用を図り診療実績の増加へ繋げていく。

健康管理センターの体制充実や生活習慣病専門外来を充実

- ・健康管理センター

別館改修工事に伴い、宿泊ドックは新館 11 階へ、日帰りドックは本館 2 階へ仮移転し業務を遂行していたが、予約枠を縮小、制限せざる得ない状況から結果的に減収となった。平成 21 年度は、リニューアルされた別館 7・8 階を人間ドックの拠点に、新健診システムの開発導入、宿泊ドック用個室の増床（14 床から 24 床に増床）、医療スタッフの確保、給食の外部委託などソフト及びハード面で充実を図り、增收を目指していく計画である。

- ・生活習慣病専門外来

メタボ外来、禁煙外来、肥満外来、女性外来（平成 21 年度から女性総合医療センターを設置）など特色ある専門外来における更なる質的充実のため関連診療科との連携強化を図っていく。

DPC 分析を活用し、クリニカルパスの改良による医療の標準化、効率化

DPC 分析は、私立医大協会ベンチマークによる他院とのデータ比較が開始され、今年度から実用段階に入ったため、他大学との分類疾患ごとの相対的経費比較が可能となった。

ジェネリック薬品の選択的採用を拡大と診療材料の標準化

- ・ジェネリック薬品の使用については、平成 18 年度から造影剤を中心に積極使用を呼びかけているが、進んでいない現状にある。
平成 20 年度は、注射薬のジェネリック薬品の使用について、薬剤部、医事課を中心に検討を開始した。今後は、薬事委員会を中心に診療科別の先発使用薬品のベスト品目についてデータ整理を行い、切り替えに向けた取り組みを検討していく計画である。
- ・診療材料については、医療安全、感染対策、コスト削減の観点から業務改善委員会で規格統一による標準化が進められた。特に、コスト削減に向けた具体的な対策についてプロジェクトを発足して検討が開始された。

収支改善に向けた病院長ヒアリングの実施

病院長と各診療科長、医局長とのヒアリングを実施した。ヒアリングでは、各診療科から今年度の状況報告と平成 21 年度における数値目標の提示を求め、次年度において半期毎或いは四半期毎にその達成度の評価を行うことを企図している。

13) 経営管理目標の達成状況

平成 20 年度の主な経営管理指標の目標値と実績は、目標が達成できたのは平均在院日数の短縮だけで、その他の項目については目標が達成できなかった。

平成 19 年度実績に対しても平均在院日数、病床稼働率、患者紹介率、院外処方率は向上したが、患者増の鍵となる新入院患者数、新患患者数が減少となった。

診療実績は予算との対比では、8,069 万 4,000 円 (100.1%) の増加、対前年度比では 2,221 万 3,000 円 (100.1%) の増収となった。

（4）金沢医科大学氷見市民病院

1) 診療体制の整備

・常勤医師の確保

氷見市が運営していた平成19年度末の常勤医師数は34名（うち研修医2名）であったが、金沢医科大学が指定管理者として運営を開始した平成20年4月は6名減の28名（うち研修医2名）体制でスタートした。平成20年度において金沢医科大学及び他大学との医師派遣協力を推進した結果、年度当初より4名増の32名（うち研修医2名）体制となった。

・看護師の確保

平成19年度末の看護師数は173名であったが、平成20年4月は22名減の151名でスタートした。このため、1看護単位40床を閉鎖して4看護単位204床での運用とした。その後も若干の看護師が退職したため、平成20年度末では3名減の149名体制となったが、パート看護師の増員により204床での稼働を維持することができた。

・診療科の新設

医療法上の診療科はこれまでの20診療科を継承した。院内標榜科は総合診療科、心身医学科、救急科を新設し、26診療科とした。

・土曜診療の開始

地域住民のニーズに応えるため、これまで休みとなっていた土曜診療を開始した。実施にあたっては医師、看護師、コメディカル等の勤務体制が大きな課題となったが、各部門において勤務割の工夫などを積極的に進め、土曜診療が実現した。平成20年度の土曜日1日平均患者数は132人となった。今後、医師及び看護師の充足状況と地域のニーズを踏まえて、土曜診療のあり方を検討する。

・救急体制の整備（時間外）

年度当初から医師不足のため、救急患者の受け入れを制限せざるを得ない状況となった。特に循環器内科及び脳神経外科の医師不足により、緊急対応が必要な心臓疾患や脳疾患の患者は高岡市に搬送依頼するケースが多い。こうした中、平成21年2月から3月にかけて脳神経外科の常勤医師が2名着任し、3名体制となった。これにより、平成21年度から脳神経外科領域における24時間オーコール体制が可能となった。時間外の救急体制については、開院当初から内科と外科による複数医師体制を実施した。平成20年度の救急患者（時間外）の受け入れ数は6,005人となり、前年度7,601人より1,596人（-21%）の減少となった。このうち救急車の搬送件数は635件となり、前年度713件より78件（-11%）の減少となった。

・医療安全の推進

医療安全を推進するため、医療安全管理者（専従）及び感染管理者（専任）の配置、医療安全対策部の設置、医療安全指針・マニュアルの整備、医療安全管理加算の届出、医療安全研修会の開催など、安全対策の充実を図った。特に専従の医療安全管理者を配置したことにより、安全対策に欠かせないインシデント報告の件数が増えた。平成20年度のインシデント報告件数は952件となり、前年度の294件から大幅に伸びた。この結果、各部門の改善点が明確になり、入院患者の転倒・転落の防止や指示・伝達ミスの防止など、具体的な安全対策が進んだ。また、平成21年3月2日と3月18日に藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院との病院機能評価（医療安全対策及び感染対策等）の第1回相互ラウンドを実施し、両病院における安全対策の比較・検討、改善点の洗い出

しなどを行った。

- ・病診連携の推進

高岡医療圏における病診連携を推進するため、氷見市及び近郊の関連医療機関及び老健施設等の病院長、事務長らを招いて、平成 20 年 11 月 8 日（土）に氷見市の氷見グランドホテルにおいて第 1 回地域医療懇談会を開催した。出席者は 73 名（関連医療機関等 45 名、院内 28 名）で、当院の地域医療に対する考え方や将来展望を紹介する機会として有意義な会となった。紹介率 40% 以上を目標に今後も定期開催する。

- ・遠隔診断システムの導入（X 線診断、病理診断）

診療体制の安全性と効率化を図るため、金沢医科大学との連携により X 線と病理組織の遠隔診断システムを導入した。これにより、放射線科医師の業務軽減と病理医不在の中での迅速な病理診断が実現した。

- ・医薬分業及び服薬指導の推進

院外処方箋の発行率は 56%（前年度 32.8%）と増加した。これにより薬剤師の調剤業務は大きく軽減したが、一方、服薬指導件数は 1,168 件（前年度 1,818 件）と減少した。服薬指導件数が伸び悩んでいる原因是、入院患者の減少もあるが、病院全体としての服薬指導に対する積極的な取り組みが進んでいないことがある。今後、患者を中心とした医師、看護師、薬剤師の連携を強化し、服薬指導件数を増加する。

2) 収益増加対策

- ・適正な平均在院日数の把握

平成 20 年度の平均在院日数は 19.2 日となった。月別推移でみると、5 月から 7 月にかけて 20 日を大きく超えたため、10 対 1 入院基本料の基準 21 日以内の維持が難しい状況となった。このため、8 月から 10 月にかけて診療各科の協力ものと 17 日前後となるように退院調整を行った。しかし、この期間の入院患者数は一挙に 140 人前後に落ち込み、通常より約 20 人の減少となった。当面は、平均在院日数 19 日の運用が必要となるが、平成 21 年度から DPC を導入するため、平均在院日数の短縮は喫緊の課題となる。氷見市内はもちろん高岡方面からの新入院患者の獲得策を検討する。

- ・手術件数の増加

平成 20 年度の手術件数は、1,154 件で前年度より 144 件増加した。このうち全麻件数は 439 件（全麻率 38%）で前年度とほぼ同件数となった。特に眼科、消化器外科、整形外科の手術件数が増加した。

- ・専門医療の実施

心臓手術を実施するため、胸部心臓血管外科、循環器内科、麻酔科医師の確保及び機器整備の準備作業を行った。また、担当看護師や ME 技師などの医療スタッフについては、院外医療機関の協力を得てスキルアップ研修を実施した。平成 21 年度から胸部心臓血管外科及び麻酔科医師が着任することで心臓手術の実施体制は確立する。

- ・訪問リハビリテーションの拡充

早期リハビリ患者の増加と自宅退院率 60% 以上を維持することを目的に、訪問リハビリテーションの拡充を検討した。診療報酬の増加にも繋がることから、理学療法士 2 名を増員し 3 名体制とすることを決定した。今年度、理学療法士の募集を行い平成 21 年度から運用を開始する。年間 2,600 万円の増収を見込む。

- ・特定健診の実施

特定健診・特定保健指導のうち今年度は特定健診のみ実施した。実施件数は1,011件、実績額は750万円となった。前年度の住民検診より145万円増となった。平成21年度は特定健診に加え、特定保健指導（動機付け支援）を実施する。

・広報活動の強化

4月1日付で一新した当院のホームページを開設した。また、当院の情報案内として「金沢医科大学氷見市民病院広報」を発行した。ほかに、氷見市内全戸に配布される「氷見広報」に当院の紹介ページ枠を設定し、医師紹介、看護師募集、時間外救急受診の協力依頼などの記事を掲載した。平成21年度は、こうした広報活動をさらに推進するとともに、市民公開セミナー等の開催により当院の広報活動をより一層推進する。

3) 経費削減対策

・医療材料費の削減

平成20年度の医療材料費（臨床薬品、検査用試薬、医療材料、外注検査）の購入額は、12億2,700万円となり、前年度の17億1,250万円よりマイナス4億8,550万円（-28.4%）と大幅に削減した。削減の要因は、患者数の減少、薬価引き下げ（医療費ベースで-5.6%）に加え、薬剤・医療材料等の品目数の絞り込み、契約単価の引き下げ、適正在庫量の見直し、業者の厳選など積極的な経営努力によるもの。削減額のうち、価格交渉による削減額は4,526万円（-3.6%）となった。なお、物品・物流管理システムであるSPD（Supply Processing and Distribution）は、価格面でのメリットが少ないため廃止する。

・管理経費の削減

平成20年度の医療機器保守費、医事業務、警備、清掃等の委託費は、契約内容の変更及び価格交渉を行った結果、2億5,798万円となり、前年度より1,400万円（-5.2%）の削減となった。（患者給食委託費は含まず。）

・部門別原価管理システム導入の検討

平成21年7月からDPC対象病院となることを踏まえ、部門別原価管理システムの導入を検討した。平成21年度からシステムを導入する。

4) 教育・研修体制の充実

・職員研修の実施

職員のスキルアップの一環として、金沢医科大学病院と連携協力し、看護師、薬剤師、放射線技師等の部門において相互研修を行った。

・へき地巡回診療による臨床研修

氷見市民病院は、へき地医療拠点病院として、毎週月曜日から木曜日の午後、氷見市内12地区（うち補助対象地区9ヶ所）で当院の医師と看護師によるへき地巡回診療を行っている。今年度の患者延べ数は1,472人で前年度より207人（-12.3%）減少した。減少の理由は、患者の死亡及び施設入所への移行等によるもので、年々減少傾向となっている。今年度は2名の研修医が同行し、へき地医療の実態把握など地域医療の研修を受けた。研修医や学生が実際にへき地医療に参画できる意義は大きく、当院の教育研修プログラムの特色となる。今後、金沢医科大学とさらに連携強化を図る。

5) 新病院建設の対応

・病院建設推進合同プロジェクト会議の発足

新病院建設を推進するため、金沢医科大学と氷見市との合同プロジェクト委

員会を発足した。本年度は4回開催し、建設候補地、基本構想の骨子、新病院基本計画、設計事務所選考等について検討した。平成21年度は、新病院建設に係る院内組織体制を確立するため、病院長を委員長とする「総合検討委員会」を設置し、その下部組織として設置した病棟、外来、中央診療部、情報システム、管理・サービスの5つの部門検討委員会で具体的な検討に入る。

6) 医療機器の整備状況

・医療機器の購入

大学負担で購入した整備機器は、17件で751万5,000円となった。また、氷見市民病院の管理運営に関する基本協定第31条の指定管理者負担金に該当する医療機器は、11件で7,946万9,000円となった。

3. 入試に関する事項（志願者数、入学者数）及び卒業・修了の状況

（単位：人）

		入学定員	志願者数	入学者数	卒業者数 修了者数	備考
大学院	医学研究科	35	28	28	7	
医学部	医学科	110	2,534	104	101	
看護学部	看護学科	60 3年次編入 10	165 9	60 6	-	
看護専門学校	看護専門課程	-	-	-	64	
合 計		215	2,736	198	172	

* 志願者数・入学者数は平成 21 年度である。

* 卒業者数・修了者数は平成 20 年度である。

* 医学部志願者数・入学者数には編入学を含まない。

（平成 21 年度編入学試験（第 1 学年次後期編入）は平成 21 年 8 月実施のため）

* 看護学部志願者数・入学者数には編入学を含む。

* 看護専門学校は、平成 19 年度から募集停止し、平成 21 年 3 月をもって廃校となつた。

4. 金沢医科大学病院の稼働実績

平成20年度経営管理指標の達成状況

		H20年度目標	H20年度実績	目標達成度	H19年度実績	達成状況
平均在院日数	一般	20日以内	18.9日	-1.1日(達成)	19.3日	(未達成)
	DPC	19日以内	15.0日	-4.0日(達成)	17.5日	(未達成)
病床稼働率		85%以上	81.3%	-3.7%(未達成)	81.0%	(未達成)
外来患者数		1,150人以上	1,122.7人	-27.3人(未達成)	1,148.6人	(未達成)
患者紹介率		60%以上	57.6%	-2.4%(未達成)	54.8%	(達成)
院外処方率		75%以上	73.6%	-1.4%(未達成)	72.2%	(達成)
新入院患者数/日		34人以上	33.6人	-0.4%(未達成)	33.8人	(未達成)
新患患者数/日		30人以上	28.3人	-1.7%(未達成)	32.1人	(未達成)

過去5年間の患者数の推移

西暦	和暦	病床数		患者数					
		許可	稼働	1日平均	1日平均	1日平均	1日平均	新入院患者数	平均在院日数
		病床数	病床数	外来患者数	新患患者数	在院患者数	新入院患者数	人	日
2004	H16	938	938	1,244.3	31.8	773.0	32.1	24.1	
2005	H17	938	879	1,219.0	31.2	726.7	32.8	22.1	
2006	H18	938	890	1,137.7	31.6	698.9	33.0	21.2	
2007	H19	932	884	1,148.6	32.1	681.8	33.8	20.1	
2008	H20	892	840	1,122.7	28.3	658.3	33.6	19.6	

診療単価・実績予算目標の達成状況

	H20年度予算	H20年度実績	目標達成度	H19年度実績
入院単価	49,445円	50,801円	+ 1,356円	49,276円
外来単価	12,055円	12,808円	+ 753円	12,180円
入院実績	12,885,890千円	12,830,258千円	- 55,632千円	12,907,687千円
外来実績	4,048,180千円	4,184,506千円	+ 136,326千円	4,084,864千円
診療実績計	16,934,070千円	17,014,764千円	+ 80,694千円	16,992,551千円

平成 20 年度大型機器利用実績

名称	H20 年度実績	H19 年度実績	対前年増減	当初計画 / 年
放射線治療システム Varian	425 人	389 人	+ 36 人	288 人
PET - CT システム	1,211 人	811 人	+ 400 人	1,440 人
FDP 搭載型 X 線 TV 装置	2,240 件	1,595 件	+ 645 件	1,928 件
密封小線源治療装置	35 件	36 件	- 1 件	30 件
X 線 CT 装置 (64 列)	14,678 件	14,792 件	- 114 件	9,984 件
IVR - CT アンギオシステム	365 件	267 件	+ 98 件	545 件
心血管撮影装置 AXIOM	798 件	241 件	+ 557 件	900 件
MRI 装置 MAGNETOM3.0T	1,161 件	- 件	- 件	3,485 件

5. 金沢医科大学氷見市民病院の稼働実績

氷見市民病院の経営管理指標

平成 20 年度経営状況

指標	H20 年度目標	H20 年度実績	目標との差	H19 年度実績
平均在院日数(日)	19.0	19.2	0.2	17.0
病床利用率(稼働)(%)	80.0	77.4	-2.6	70.3
外来患者数/日(人)	488	492	4	597
患者紹介率(%)	30.0	19.3	-10.7	注 1) 24.0
院外処方率(%)	60.0	54.5	-5.5	32.8
新入院患者数/日(人)	8.2	7.8	-0.4	11.3
新患患者数/日(人)	8.0	6.6	-1.4	-

注 1) H19 年度の患者紹介率は再診患者を含む。H20 年度は初診患者のみ。

氷見市民病院の患者数

年度		病床数		患者数				
西暦	和暦	許可	稼働	1日平均	1日平均	1日平均	1日平均	平均在院日数
		病床数	病床数	外来患者数	新患患者数	在院患者数	新入院患者数	
2008	H20	368	204	492	6.6	158	7.8	19.2

氷見市民病院の診療単価・実績

	H20 年度予算	H20 年度実績	目標達成度	H19 年度実績
入院単価	-	37,445 円	-	36,761 円
外来単価	-	11,925 円	-	12,343 円
入院診療実績額	-	2,160,804 千円	-	2,771,530 千円
外来診療実績額	-	1,706,898 千円	-	1,846,079 千円
合計診療実績額	-	3,867,702 千円	-	4,617,609 千円

財務の概要について

1. 平成20年度決算の概要

(表1) 消費収支計算書

帰属収入の部	20年度 決算	19年度 決算	差 異 -	20年度 予 算	差 異 -	(は比較上の減少を表す) (単位:百万円)	
						20年度 決算	帰属収入比
学生生徒等納付金	4,594	4,583	11	4,598	4	4	18.3%
手数料	157	158	1	157	0	0	
寄付金	564	735	171	710	146	146	2.2%
特別寄付金(寄附講座等)	19	10	9	0	19	19	
一般寄付金入学時	212	296	84	300	88	88	
一般寄付金その他	300	413	113	400	100	100	
現物寄付金	33	16	17	10	23	23	
補助金	2,036	1,429	607	1,808	228	228	8.1%
経常費補助金	1,080	1,120	40	1,050	30	30	
文科省設備補助金	338	224	114	225	113	113	
臨床研修費補助金	49	46	3	49	0	0	
その他の補助金	569	39	530	484	85	85	
資産運用収入	389	970	581	383	6	6	1.5%
受取利息配当金	317	893	576	300	17	17	
施設設備利用料	72	77	5	83	11	11	
事業収入	205	207	2	260	55	55	
医療収入	17,020	16,995	25	16,934	86	86	67.8%
入院収入	12,831	12,884	53	12,886	55	55	(19決算比 0.4%増)
外来収入	4,189	4,111	78	4,048	141	141	
雑収入	135	122	13	60	75	75	
帰属収入の部合計	25,100	25,199	99	24,910	190	190	100.0%
消費支出の部	20年度 決算	19年度 決算	差 異 -	20年度 予 算	差 異 -	20年度決算 帰属収入比	
						20年度 決算	帰属収入比
人件費	11,571	11,455	116	11,630	59	59	46.1%
教員人件費	3,572	3,606	34	3,660	88	88	(19年度決算 45.5%)
職員人件費	7,232	7,088	144	7,150	82	82	
役員報酬	91	70	21	70	21	21	
退職給与引当金繰入額 及び退職金	676	691	15	750	74	74	
教育研究経費	1,552	1,498	54	1,418	134	134	6.2%
医療経費	8,577	8,215	362	8,407	170	170	34.2%
薬品費	3,294	3,208	86	3,236	58	58	(H20 医療収入 比 50.4%)
医療材料費	2,391	2,455	64	2,492	101	101	
給食材料費	255	242	13	243	12	12	(H19 医療収入 比 48.3%)
医療検査費	115	115	0	107	8	8	
その他の医療経費	2,522	2,195	327	2,329	193	193	
管理経費	557	535	22	458	99	99	2.2%
借入金等利息	1	0	1	5	4	4	
減価償却・資産処分差額	2,712	2,507	205	2,570	142	142	10.8%
予備費	0	0	0	200	200	200	
消費支出の部合計	24,970	24,210	760	24,688	282	282	99.5%
収支差額	130	989	859	222	92	92	0.5%
有価証券評価差額	3,351	0	3,351	0	3,351	3,351	
差引消費収支差額	3,221	989	4,210	222	3,443	3,443	

(表2) 資金収支計算書

(単位:百万円)

資金収入の部	20年度	19年度	差 異	20年度	差 異
	決 算	決 算		予 算	-
資金を伴う帰属収入	25,067	25,183	116	24,900	167
帰属収入の部合計	25,100	25,199	99	24,910	190
非資金収入除外	33	16	17	10	23
資産売却収入	0	0	0	0	0
借入金等収入	1,318	510	808	1,500	182
短期借入金収入	1,000	0	1,000	1,000	0
学校債収入	318	510	192	500	182
前受金収入	3,698	3,929	231	3,600	98
その他の収入	4,678	3,751	927	4,647	31
資金収入調整勘定	7,663	7,726	63	7,429	234
期末未収入金	3,734	3,373	361	3,500	234
前期末前受金	3,929	4,353	424	3,929	0
資金収入の部合計	27,098	25,647	1,451	27,218	120
資金支出の部	20年度	19年度	差 異	20年度	差 異
	決 算	決 算		予 算	-
資金を伴う消費支出	22,086	21,675	411	22,118	32
消費支出の部合計	24,970	24,210	760	24,688	282
非資金支出除外	2,884	2,535	349	2,570	314
借入金等返済支出	1,531	366	1,165	1,400	131
借入金返済支出	1,000	0	1,000	1,000	0
学校債返済支出	531	366	165	400	131
施設関係支出	3,067	242	2,825	3,496	429
設備関係支出	1,115	1,371	256	1,049	66
資産運用支出	1,033	950	83	600	433
その他の支出	2,716	3,007	291	2,748	32
資金支出調整勘定	2,449	2,383	66	2,416	33
期末未払金	2,433	2,363	70	2,400	33
前期末前払金	16	20	4	16	0
資金支出の部合計	29,099	25,228	3,871	28,995	104
差引資金収支差額	2,001	419	2,420	1,777	224
前年度繰越支払資金	6,257	5,838	419	6,257	0
次年度繰越支払資金	4,256	6,257	2,001	4,480	224

((は計算書式上のマイナス値) (は比較上の減少を表す)

(表3) 貸借対照表

資産の部	20年度 決算	19年度 決算	増減	(単位:百万円)	
				20年度	19年度
固定資産	47,754	49,497	1,743	85.4%	83.4%
有形固定資産	35,359	33,851	1,508	63.2%	57.1%
土地	3,206	3,098	108		
建物	23,992	22,863	1,129		
構築物	759	760	1		
教育研究用機器備品	5,959	5,820	139		
その他の機器備品	60	65	5		
図書	1,225	1,217	8		
車輌	35	28	7		
建設仮勘定	123	0	123		
その他の固定資産	12,395	15,646	3,251	22.2%	26.4%
電話加入権、施設利用権	12	12	0		
有価証券、出資金他	11	11	0		
収益事業元入金	433	0	433		
長期貸付金	152	85	67		
退職給与引当特定資産	6,138	5,638	500		
減価償却引当特定資産	4,749	8,100	3,351		
施設拡充引当特定資産	0	1,000	1,000		
海外交流引当特定資産	500	500	0		
奨学事業引当特定資産	400	300	100		
流動資産	8,184	9,818	1,634	14.6%	16.6%
現金預金	4,256	6,257	2,001		
未収入金	3,728	3,357	371		
貯蔵品	199	189	10		
前払金、仮払金	1	15	14		
資産の部合計	55,938	59,315	3,377	100.0%	100.0%
負債の部	20年度 決算	19年度 決算	増減	構成比率	
				20年度	19年度
固定負債	11,322	11,344	22	20.2%	19.1%
学校債	3,803	4,007	204		
退職給与引当金	7,519	7,337	182		
流動負債	6,837	6,971	134	12.2%	11.8%
学校債	390	400	10		
未払金	2,433	2,363	70		
前受金	3,698	3,929	231		
預り金、仮受金	316	279	37		
負債の部合計	18,159	18,315	156	32.5%	30.9%
正味財産の部合計	37,779	41,000	3,221	67.5%	69.1%
負債及び正味財産の部合計	55,938	59,315	3,377	100.0%	100.0%
			(は比較上の減少を表す)		

2. 最近5年間の収支概況

科目＼年度(平成)	16	17	18	19	20
学生等納付金	42.5	43.7	44.1	45.8	45.9
寄付金	9.8	9.3	8.5	7.3	5.6
補助金	12.5	12.5	15.3	14.3	20.4
資産運用収入	1.1	4.0	8.4	9.7	3.9
医療収入	171.5	166.8	167.1	170.0	170.2
事業収入他	4.2	4.5	5.5	4.9	5.0
帰属収入合計	241.6	240.8	248.9	252.0	251.0
人件費	113.0	111.9	113.2	114.5	115.7
教育研究経費	13.0	14.0	13.2	15.0	15.5
医療経費	85.3	79.8	82.1	82.2	85.8
管理経費	4.1	4.7	6.0	5.3	5.6
借入金等利息	0.0	0.0	0.0	0.0	0.01
減価償却額他	24.4	24.6	24.7	25.1	27.1
消費支出合計	239.8	235.0	239.2	242.1	249.7
収支差額	1.8	5.8	9.7	9.9	1.3
有価証券評価差額	0.0	0.0	0.0	0.0	33.5
差引収支差額	1.8	5.8	9.7	9.9	32.2

3. 平成20年度収益事業（金沢医科大学氷見市民病院）決算の概要

金沢医科大学氷見市民病院 貸借対照表及び損益計算書

(貸借対照表)		(単位:百万円)	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
	金 額		金 額
流動資産	906	流動負債	484
現金及び預金	5	未払金	336
未収入金	820	預り金	35
徴収不能引当金	2	賞与引当金	113
貯蔵品	81	その他	0
その他	2	固定負債	48
固定資産	7	退職給付引当金	48
工具器具備品	7	負債の部合計	532
		純資産	381
		元入金	433
		利益剰余金	52
		純資産の部合計	381
資 産 の 部 合 計	913	負債・純資産合計	913

(損益計算書)		(単位:百万円)	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
	金 額		金 額
医業収益	3,884	医業費用	4,207
入院収益	2,145	材料費	1,304
外来収益	1,726	給与費	2,150
受託事業収益	4	委託費	396
施設設備利用収益	9	設備関係費	77
		経費	211
		指定管理者負担金	69
		医業利益	323
医業外収益	271	医業外費用	0
寄付金収益	4		
補助金収益	266		
雑益	1	経常利益	52